

令和4年度中学校武道授業（剣道）指導法研究事業



令和4年度中学校武道授業（剣道）指導法研究事業〔主催＝（公財）日本武道館・（公財）全日本剣道連盟・日本武道協議会、後援＝スポーツ庁〕は、6月18～19日、日本武道館大会議室（東京都千代田区）に研究者14名が出席して行われた。本研究事業は、10月28日～30日（千葉県勝浦市）と11月18日～20日（奈良県奈良市）で開催予定の「令和4年度全国剣道指導者研修会」（以下、全国研修会）に向け、指導内容について発表・協議が行われた。

■1日目（6月18日）

開講式では、^{あじろただひろ}網代忠宏全日本剣道連盟会長、永嶋信哉日本武道館振興部長がそれぞれ主催者挨拶を述べた。

開講式後、佐藤義則研究者の司会で研究事業は進められた。はじめに、軽米満世研究者より、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、3年ぶりの開催となる全国研修会の概要説明とコロナ禍での授業について発表があった。

次に、全国研修会の講義について、柴田一浩研究者が「学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた剣道指導」、藤田弘美研究者が「剣道学習における評価」「ICTを活用した剣道授業」、岩脇司研

究者が「主体的・対話的で深い学び」について、それぞれ発表を行った。

コロナ禍でICTの活用が全国に一気に広まり、授業の進め方が大きく変わっている中、全国研修会でどのようにとりあげるのか検討された結果、今年度は、講義の他に実技の中でも事例紹介などを行うこととなった。

その後、演習の導入について吉田泰将研究者より発表があり、1日目を終了した。

■2日目（6月19日）

全国研修会で担当する講義・実技について、それぞれグループに分かれて内容検討を行った。相手との距離が近くなる引き技の数を減らし、技の紹介のみとする、コロナ禍に対応した指導法などが協議された。

最後に、全国研修会で講師の共通理解を図ることを目的に、講師用資料の作成を行った。各担当者が指導上の留意点を中心に、時間配分や語句の統一など、細かい部分まで検討を行った。

閉講式では、研究者を代表して^{なきりふみのり}百鬼史訓全日本剣道連盟参与が講評を、永嶋信哉日本武道館振興部長が主催者挨拶を述べて、全日程を終了した。